

町医者だより

平成21年10月号

〈発行・お問合せ先〉

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ジャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

新型インフルエンザワクチン

南半球でのインフルエンザの流行が終わり、これから日本で本格的なインフルエンザの流行が始まります。定期購読しているニューイングランド医学雑誌から新型インフルエンザ関連の話題を今月と来月提供いたします。今月はワクチンの話です。

従来の季節性インフルエンザワクチンでは新型インフルエンザに対する抗体はできません

新型インフルエンザはN1H1というA型インフルエンザの仲間です。新型インフルエンザウイルスを構成する重要な蛋白の元になる8つの遺伝子のうち5個はブタから、2つがトリから、1つがヒト由来で残念ながら従来の季節性インフルエンザ(8つの遺伝子はすべてヒト由来)の構成蛋白との抗原性が異なり季節性インフルエンザワクチンでは新型インフルエンザに対する抗体はできない、との論文がすでに発表されています。

南半球(オーストラリア、ニュージーランド)からの報告

今年の6月1日から8月31日までにICUに入院したA型インフルエンザ感染患者についての報告がありました。ICUに入院するくらいですので重症の患者さんですが、季節性(従来の)インフルエンザA型患者は4.3%で、新型インフルエンザと確定診断された患者が84.3%、A型と診断されたが新型かどうか分からなかった患者が11.3%でした。その患者さんも含めると実に95%の患者さんが新型インフルエンザで、A型インフルエンザ=新型インフルエンザと考えてよいとする根拠はここにあります。従来見られた季節性A型インフルエンザが駆逐される勢いで、この「新型」が来年以降の「季節性」インフルエンザになるのか注目されます。入院患者の92.7%が65歳以下で喘息・慢性呼吸疾患をお持ちの方、以前から米国でも指摘されたように著しい肥満の方、糖尿病の方、心不全の方が多いです。BMI(body mass index : 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m))が35を超える肥満の方は要注意です。

新型インフルエンザワクチン

オーストラリアと中国から報告がありました。中国からの報告は10月21日付けで、12~60歳までの方は、これから日本でも接種がはじまる新型インフルエンザワクチン(0.5mL)1回接種で97%の方で有効抗体上昇を得られます。61歳以上で79%、3歳~11歳で74.5%と有効抗体上昇の達成率がやや低いのですが2回接種でさらなる抗体上昇を得られることが示されています。それにしても、中国は2200人規模のこの臨床研究を自前のワクチンで8月までに終えて超一流医学雑誌に論文を発表しています。国力の差の拡大は医学においても明らかです。もう一つ残念なことはこれらの優れた論文も日本にそのまま適用できない事です。と、言いますのは海外ではワクチン接種量が3歳以上は大人も子供もみんな0.5mLで接種していて日本のような変な減量をしていないからです。本来のインフルエンザワクチンの使用目的は、「感染予防」ではなく「重症化」を防ぐことにあります。これから始まる新型インフルエンザワクチン接種によって死亡率を低下させることができるかなど真の有効性の評価は来年の春ごろに判明します。